

香港芸術館「大阪市立美術館蔵宋・元・明中国書画珍品展」

近年、中国の経済発展に伴い、中国国内はもとより、世界中で中国美術を主題とした展覧会が盛んに開かれている。本館でも、中国書画作品の海外館からの依頼がにわかに多くなってきた。一昨年度（2010年）のニューヨーク・メトロポリタン美術館の「The World of Khubilai Khan—Chinese Art in the Yuan Dynasty」、上海博物館の「千年丹青—日本中国蔵唐宋元絵画珍品」に次いで、本年度も蘇州博物館と香港芸術館から出陳依頼を受けていた。

蘇州博物館は「石田大穰—呉門画派之沈周特展」と題する展覧である。明代中期、豊かな江南の農作物と絹織物工業により蘇州は繁栄を極め、数多の文人が集って詩文書画を競った。彼らは蘇州の別称をとって「呉派」と呼ばれ、絵画では沈周・文徵明・唐寅・仇英が「明四大家」と称される。その筆頭に挙げられる沈周（号は石田）の展覧会で、本館からは4件を貸し出すこととなった。

一方の香港芸術館は「大阪市立美術館蔵宋・元・明中国書画珍品展」と題する、本館の収蔵する中国書画「阿部コレクション」を紹介する特別展覧であった。2012年11月30日より2013年1月9日まで、香港特別行政区政府康樂及文化事務署の主催、大阪市立美術館協催、香港芸術館・大阪市立美術館合同企画という形で開催された。おりしも日中国交正常化40周年にあたり、香港側としては特別行政区成立（中国復帰）15周年および香港芸術館開館50周年の祝賀行事という位置づけでもあった。

この展覧会は、3年以上前の2009年春、香港芸術館館長司徒元傑氏からの、阿部コレクションをぜひ香港で、という打診に始まった。同年12月、当館館長との交渉を経て、翌年に2012年秋の開催が内定した。作品の選定から、協約書の締結、写真や資料の手配、輸送の段取り、重要文化財や象牙（掛軸の軸端）の輸出手続き、保険条件の交渉といった煩瑣な事務作業まで……相互に苦心を重ねてようやく、という時に尖閣問題である。

香港芸術館は香港の九龍半島の突端、目抜き通り彌敦道の南端、香港文化中心の中に位置する。5階建てビルの壁に掛

けられた巨大な展覧会バナーは彌敦道からもよく目につく。周囲にはコンサートホール、大小の劇場、プラネタリウムなどが立ち並ぶ。前には半島ホテルや喜来登酒店、傍らには天星小輪乗場、裏手は維多利亞港に面する絶好のロケーションである。ロビーや踊場からは対岸の香港島に林立する高層ビル群が一望でき、日没後はまばゆい夜景が楽しめる。2階には有名な「虚白齋コレクション」の展示室があり、中国書画の優品を常に見ることができる（随時展示替）。香港を訪れたおりには、お立ち寄りいただきたい。

出品作品は、伝・王維「伏生授経図」、燕文貴「江山樓觀図」など、当館蔵品を代表する38件である。会場は4階の中国書画展覧庁。縦軸は空間を贅沢に使う、ゆったりと展示されている。巻子の上部のガラスの所々には、光源の目隠しも兼ねて作品の拡大シートが張られ、細部が見られるようにしてある。また、数点の作品には大きなパネルで、細部や収蔵印の解説、構図の説明などが施されている。揭示解説は簡略だが、多くの図版と解説が載ったパンフレットが無料で配られていた。

開幕前日には記者会見と開幕式があった。十数にのぼる新聞・雑誌社が取材に来ており、翌日、宋元の名品の到来という盛挙が紙面を賑わせたが、併せて「阿部コレクション」の説明に各紙が言及していたのが特徴的であった。開幕式では篠館長が挨拶、翌初日には弓野が阿部房次郎とその収集について講演を行った。

昨秋よりの日中関係の齟齬が懸念されたが、展覧会開始まもなく、展覧会が大きな反響を呼んでいる、との嬉しいメールが飛び込んできた。香港市民の歓迎を受けたばかりでなく、中国本土はもとより台湾などからの来訪も多かった。結果来館者は36日間の開催で92,921人。芸術館の通常の特別展は2-3ヶ月で3-4万人らしく、その数は突出していたそうである。

ちなみに蘇州博物館は観光地で普段から来客が多いが、延べ62日の開催で入館者数180,420人、去年同期比20%増で大成功だそうだ。今回の両展覧会が、大阪と香港や中国大陆との文化交流の一翼を担えたものと確信している。

（弓野隆之）



開幕式で祝辞を述べる篠雅廣館長



香港芸術館外観



展覧会場風景

特別展

ボストン美術館 日本美術の至宝

JAPANESE MASTERPIECES FROM THE MUSEUM OF FINE ARTS, BOSTON

4月2日(火)～6月16日(日)

修復後、世界に先駆けて公開される曾我蕭白の
超大作「雲龍図」をはじめ、海を渡った“まぼろし
の国宝”、史上最大の里帰り！

東洋美術の殿堂と称されるアメリカのボストン美術館には、
10万点を超える日本の美術品が収蔵され、海外にある日本美

術コレクションとしては随一の規模と質の高さを誇っています。
この日本美術コレクションは、アーネスト・フェノロサ、ウィリアム・
スタージス・ビゲロー、岡倉天心といったボストン美術館草創期
の人々によってその基礎が作られました。

ボストン美術館は、作品保護の観点から作品の展示期間を
厳しく制限しており、本展の開催に向け、その出品作品のほと
んどを5年間にわたって公開を控えて準備をしてきました。また、
ウィリアム・スタージス・ビゲローのコレクション寄贈100年記
念事業として、日本とアメリカの協力のもと、未公開作品を含む
大規模な保存修復事業を行ってきました。

本展では、修復された未公開作品を含め、ボストン美術館の
日本美術コレクションから70点の名品を厳選してご覧いただき
ます。仏像・仏画に絵巻、中世水墨画から近世絵画まで、かつ
て海を渡った“まぼろしの国宝”とも呼べる日本美術の至宝が一
堂に里帰ります。



雲龍図(部分) 曾我蕭白筆
江戸時代・宝暦13年(1763) ボストン美術館蔵



島松図屏風 尾形光琳筆
江戸時代・18世紀前半 ボストン美術館蔵



平治物語絵巻 三条殿夜討巻(部分)
鎌倉時代・13世紀後半 ボストン美術館蔵



弥勒菩薩立像 快慶作
鎌倉時代・文治5年(1189)
ボストン美術館蔵

All Photographs © 2012-2013 Museum of Fine Arts, Boston.

展覧会公式ホームページ <http://www.boston-nippon.jp/>

■記念講演会

いずれも13時30分～15時 大阪市立美術館 講演会室 定員150名

①4月2日(火)・「継続する歴史:ボストン美術館の日本美術」

②5月11日(土)・「蕭白の奇想絵画」

③5月18日(土)・「至宝が眠る蔵の中へ-ボストン美術館での日本絵画調査-」

※事前申込制 無料。ただし当日の本展観覧料が必要。応募多数の場合抽選。申込方法等については大阪市立美術館・総務課までお問い合わせください。

講師:アン・ニシムラ・モース(ボストン美術館 日本美術課長)

講師:冷泉為人(公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫理事長)

講師:木村重圭(甲南女子大学教授)

■美術講座

13時30分～15時 大阪市立美術館 講演会室 定員150名

4月19日(金)「フェノロサ、ビゲローと大阪の古美術商・山中」

講師:知念理(当館主任学芸員)

※申込不要、無料。ただし当日の本展観覧料が必要。

■見どころレクチャー

いずれも11時～11時30分 大阪市立美術館 講演会室

4月16日(火)・23日(火)・26日(金)

講師:担当学芸員

※申込不要、無料。ただし当日の本展観覧料が必要。